

播種精度を高めるコツ (乾田直播)

<乾田直播 (トラクタ直装式・耕起施肥播種機)>

- (1) いわみざわ地域ではバッチカルハローシーダーの3m幅を基本とします。
- (2) トラクタは90馬力以上が必要です。ホイール型・クローラ型の両方が装着可能です。
- (3) 播種後に鎮圧作業が必要です。

Point 1
鎮圧ローラーの鎮圧力を期待しない！高低差がなくなる程度。

Point 3
マーカは直進するために重要な役割を持つ。

Point 2
播種深度を確認しながら作業機を最高の状態に調整する。

Point 4
ホイール型はラジアルタイヤ装着で旋回後がきれいで、苗立ちムラを減らすことができる。

Point 5
オペレーターはモニターに写る速度・ロアリンク角度・回転数などの情報を参考にし、最高の播種状態になるように作業機を調整・運転。

Point 6
ホッパーは大容量(別注)で補充なしで50a播種が可能。

Point 7
バッチカルハローの碎土を当てにしてはいけない！深くすると大きい土塊が上にくるので注意する。

Point 8
すべての畝が浅く均一に播種されるよう調整する。(作業機の自重により中心が深くなる現象)

Point 9
は種後、種子・肥料の筋が見える程度が良好。

重要なポイント
耕起深2cm程度、播種深度を5~10mmに調整

④
ポイント②での測定量から、各ホッパーごとにダイヤル調整をし、播種・施肥量を決める。

⑤
トップリンクはゲージがあると調整しやすい。トラクタにロアリンクの角度が表示されるタイプも調整しやすい。

⑥
20回手で回し実測

⑦
作業機を上昇させ、後方の鎮圧ローラーで播種の駆動力を落着く種子と肥料の重量を測定し調整。カップと測りが必要。

⑧
油圧取り出しは2系統以上必要。

⑨
必ず長さを計測し合わせる
ポイント⑧の状態を左右と、作業機中央にあるリフトロッド3本で播種深度を微調整調整する。

⑩
バッチカルハローは均平を乱さずに播種が可能。耕起深は2cm程度。

⑪
ケンブリッジローラーは自重が重く、複数の鎮圧輪で構成されるタイプが効果的です。

⑫
播種後は2回かけることを基本にします。夕方など湿度が高まると、土がへばりつき播種深度を乱します。(播種直後の降雨に注意し、作業計画を立てましょう!)

直まき10俵どり
指南書
1章
efficacy
2章
point
栽培技術のポイント
3章
schedule
4章
the yield
5章
word
6章
news
7章
editor's note
15

直まき10俵どり
指南書
efficacy
2章
point
栽培技術のポイント
3章
schedule
4章
the yield
5章
word
6章
news
7章
editor's note
16